

地域コミュニティの取り組みが始まりました！

筑紫野市では、自治会より広い範囲でのまちづくりを支える組織として、「地域コミュニティ運営協議会（市内に 7 つ）」を整備し、これから迎える超高齢社会に対応するための「協働によるまちづくり」の取り組みを行っています。

山口校区においても、山口校区区長会と市とで協議し、第 1 回学習会を 10 月 2 日（水）に開催しました。

学習会には 74 人の方々が参加し、今後の取り組みに向けての趣旨説明を行いました。

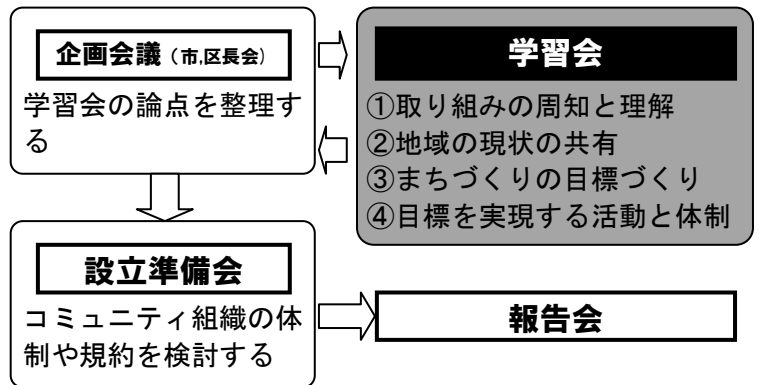
説明に使われた資料等は、市公式ホームページ「筑紫野市のコミュニティ施策について」に掲載されています。「新着情報」から見るができますので、ぜひ、ご覧ください。

これからの学習会は、山口校区のまちづくりの方向性について、ワークショップ形式で話し合いをしていく予定としています。

裏面に第 2 回の学習会をご案内しておりますので、ぜひ、ご参加ください。



これからの予定



第 1 回学習会 地域コミュニティの概要についての説明資料（抜粋）

なぜ必要なの？

コミュニティづくりの背景

少子高齢化や核家族化、都市化が進むなどの急激な社会変化に伴い、住民ニーズが多様化してきました。このため、健康福祉や環境、青少年の育成課題など、1つの自治会では対応できない課題が生まれてきました。自治会が抱えているこのような課題を解決するために、自治会よりも広域でのコミュニティの再構築を行う必要が生じてきたのです。

また、急激な社会変化に対応したまちづくりを推進していくためには、行政だけの取り組みでは限界があり、地域住民のみならず行政との協働によるまちづくりが大切になってきました。

- | | |
|---------------------------|-------------------------|
| 自治会単位の活動が困難に | 行政サービスの縮減が困難 |
| ○少子高齢化→行政サービス単位の縮減が困難 | ○少子高齢化→行政サービスの縮減が困難 |
| ○核家族化・都市化→行政サービスの縮減が困難 | ○自治会単位の縮減→行政サービスの縮減が困難 |
| ○住民ニーズの多様化→自治会（長）単位の対応が困難 | ○住民ニーズの多様化→行政サービスの縮減が困難 |

自治会より広い単位(コミュニティ)でのまちづくり

筑紫野市

地域コミュニティ基本構想

平成 19 年度より職員による「コミュニティづくり基本方針策定プロジェクト会議」により構想案を策定し、平成 20 年度に区長会 10 名と市の職員 9 名による「コミュニティ基本構想策定委員会」により構想案をもとに検討を重ねて、平成 21 年 3 月に策定しました。

この基本構想は、小学校区を単位とした新たな地域自治組織を再編し、住みよい地域づくりを行うための基本的な考えを示したものです。

小学校区を基本単位としながらも、地域の実情や歴史的背景なども考慮して、当面の取り組み目標を 7 つのコミュニティ区域に設定しました。

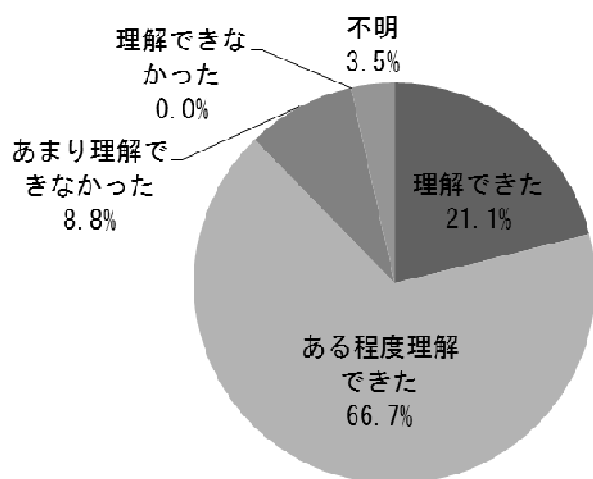
筑紫野市

質問と回答（抜粋）

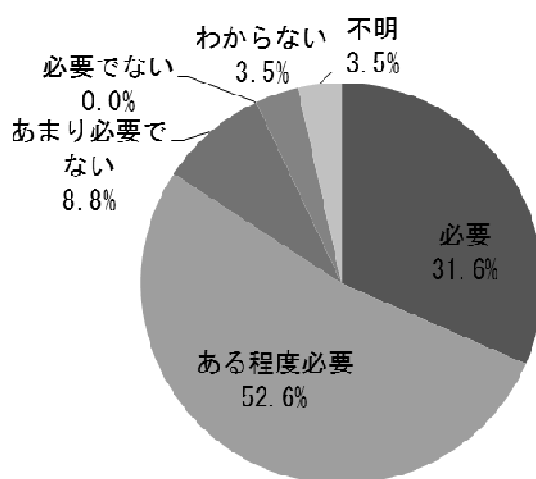
- Q. 都市部と農村部のコミュニティのあり方は違ってくると思われるが、地域性をどう考えていくのか。
- A. (市民協働推進課) 人口の多い少ないではなく、地域の特性にあった、小学校区を基本とするコミュニティを作っていこうと考えている。地域で話し合う中で、解決策を模索していくことになる。
- Q. 今後の取組みに向けて、マニュアルをつくり、配布するべきではないか。
- A. (市民協働推進課) これからワークショップなどをする中で、様々な意見が出てくるものと思う。今の時点で、画一的なマニュアルをつくることにはためらいがある。慎重に検討したい。
- Q. コミュニティは、一般の区民の方にいかに納得してもらうかが重要であり、学習会は、区民にもお知らせすることが重要でないか。
- A. (市民協働推進課) 学習会のニュースの全戸配布を予定しており、区の役員の方だけでなく一般の区民の方々にも学習会への参加を呼びかけたい。

参加者アンケートの結果（抜粋）

地域コミュニティについての説明は？



地域コミュニティについての取組みは？



感想・意見（抜粋）

- 各行政区の色々な団体の横のつながりができ、山口小学校の新きょうどう教育ともつながっていけば、とても良いものになっていくと思いました。ただ、子育てをしながら、毎月参加するのは少ししんどいです。
- 地域コミュニティの協議会で、それぞれの地区でつくられている特性があり、子ども会などとしても、まとめていくのが、どのようになるのか？ 現在の活動に加えて協議会の活動があるとすると、更に役員の負担が増えるのではないかと考えるひともいるのではないか。
- 校区にて事業をしているが、もっと校区で取り組むことが必要なことがあると思う（夏祭りなど）。組織を作るために若い人の意見、若い人の参加が必要と思う。
- 各団体がバラバラに活動しているので、問題が起きた時にどこに伝えたらいいのか。横のネットワークは必要だと思います。

第2回 地域コミュニティ学習会のお知らせ

第2回の学習会は、山口校区の「現状の共有」をテーマに山口校区の魅力や問題点などについて、みんなで話し合います。多くの方々の参加をお待ちしております。

日時：11月11日（月）19：00～ 2時間程度 場所：山口コミュニティセンター大研修室
問い合わせ先：市民協働推進課 地域コミュニティ担当 (092-923-1111 内線 211・212)
山口コミュニティセンター (092-922-2551)